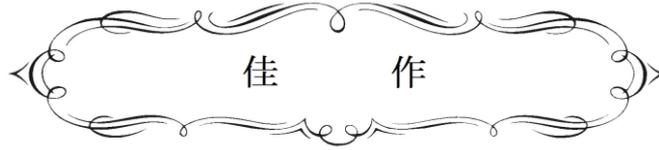


建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



「災害報道を通して感じたこと」

愛知県立猿投農林高等学校 環境デザイン科1年
加藤 鉄平

今年の7月上旬の大雨で、静岡県熱海市が大きな被害を受けました。そのとき私の祖父が住む静岡県沼津市も大雨の影響で「黄瀬川大橋」が折れてしまっている映像を見て、とても驚きました。この橋は、沼津市と清水町をつなぐ、地元の人にとっては主要道路として使われています。父が言うには、帰省の際、何度も通ったことがあるそうで、父もすごく驚いて心配していました。

私は高校に入学するまでは、建設について興味がありませんでした。学校で土木施工を学び始め、私たちの生活にとっても重要なものということを知りました。交通・物流施設、エネルギー施設、上下水道施設、公園施設の整備など、土木工事は私たちの日常生活に便利さやうるおいをもたらし、社会基盤の整備を通して、安心・安全で良質な社会空間を建設しています。さらに、日本は自然災害が多く、防災や復旧・復興の技術も備えておくことが大切で、土木建設の重要な役割です。

今回の大雨で、黄瀬川大橋は橋脚が折れてしまい、橋がV字形に崩壊してしまいました。崩壊時には、橋に人がいなかったのですが、人の被害はなかったそうです。調べてみると、この橋は、今は県道ですが、旧国道1号線で交通量が多く、通れなくなったことで、通勤や帰宅時間帯は周辺の道路の渋滞がひどい状況です。復旧するには年単位でかかるそうです。そのため、静岡県と国土交通省は、この県道の通行を確保するために仮設の橋を設置することを決めました。この仮の橋を「応急組立橋」といいます。応急組立橋は、短期間で完成させることができる災害被災地向けの組み立て式の橋です。近年の地震や自然災害の増加によって、緊急搬送路である応急組立橋の役割は、とても重要になってきています。短期間でバスや大型トラックや自動車の通行にも耐えられる強度の橋を作ることができます。組み合わせる部材の個数を変えることで、現場の条件に合った長さに柔軟に調整できるのが特徴です。静岡県と国土交通省は、8月末の開通を目指して設置する方向で進めているそうです。この橋が開通したら、実際に歩いて渡ってみたいですね。また機会があれば、設置の様子を見学してみたいと思います。この応急組立橋が設置されることで、周辺の道路の渋滞がなくなることを地元の人達も期待しています。

このことから私は、自分の生活の様々なところに、今学校で勉強している建設の分野が活かされていることがわかりました。時々、道路で測量している人を見かけます。測量の技術で私たちの生活が成り立っているとは、勉強するまで知りませんでした。ダムや橋などの構造物を建設した技術者たちは、完成後も長年にわたって維持や管理をしていく必要があります。そのために設計の段階から維持や管理などに配慮することが必要だそうです。構造物の維持管理、周辺環境への配慮と調和、災害対策など、考えなければならぬことがたくさんあります。10月に高校生現場見学会に参加させて頂く予定になっており、そこで「建設技術フェア」を見学するそうです。建設会社、建設機器メーカー、ソフト関連会社、官公庁、大学等がブースを出して展示発表するそうです。そこでいろいろなブースを見学し、建設業の最先端を体験してみたいと思っています。きっと、応急組立橋のような災害対策のブースもあることでしょう。

本校環境デザイン科は2年生から、建設コースと造園コースに分かれます。入学当初は、造園の方に興味が高かったのですが、最近は、選択を決めかねています。この見学会で、見学、体験できることを参考にコース選択を決定し、将来はコースで勉強したことを生かせる職場で働きたいと思っています。